

投資情報 ウィークリー

2021 / 10 / 25



もっと豊かに、ヒューマンライフ。

三津井証券株式会社

商号等／三津井証券株式会社

金融商品取引業者 北陸財務局長(金商)第14号

加入協会／日本証券業協会

本レポート末尾の「投資にあたっての注意事項」をお読み下さい。

投資情報ウィークリー

2021 年 10 月 25 日号
調査情報部

相場見通し

先週の日本株は下落、日経平均は 29000 円台を、TOPIX は一時 2000pt.を割り込んだ。資源・エネルギー価格の上昇、米長期金利の上昇や中国恒大集団のデフォルトリスク等が改めて意識された他、衆議院選挙の結果や企業決算に対する警戒感も出た。東証 1 部の売買代金が 3 兆円を下回る低調な商いの中で先物主導の売りに押された。また、ドル円は週半ばに 114.68 円を付けたが、日本株の調整等から週末には 114 円台前半で推移した。

S&P500 が 9 月 2 日以来となる過去最高値を更新した。来年 2 回の利上げが織り込まれつつあり、米 10 年債利回りが一時 1.7%台に乗せたものの、金余り商状の中で VIX が低下、テスラ、ネットフリックス、ウォルグリーン、GS、バンカメなどの好決算発表が上昇のけん引役となった。大型ハイテク株、供給制限・インフレなどの影響を受ける、或いは受けそうな企業の決算発表はこれからだが、市場の期待はより高まっているようだ。日本企業の上期決算発表(下図参照:主な 3 月期決算企業の会社計画と QC)も今週以降に本格化。上期業績は主に製造業で会社計画比上振れが期待されるが、下期からの外部環境の悪化、すなわちコモディティ価格上昇や円安、サプライチェーン混乱等によるコストアップ増・マージン悪化及び供給不足による機会ロス(スマホなど)、中国景気の減速など不透明材料が多く、通期会社計画がコンセンサス比で下振れ、または想定以上に慎重な計画が出てくる可能性があり、各企業の決算内容をより精査する必要があるそう。尤も、セクターや企業によってまちまちも、①コストアップ分を価格転嫁する動き、②半導体など需要が堅調で数量増が見込める、③自動車などで部品不足は徐々に解消の方向へ、④国内の経済活動正常化が徐々に見込まれる(主にサービス業の回復)、⑤国内の過剰貯蓄が消費を下支え、⑥岸田政権による財政支出、⑦中期的な IT 投資の堅調、などが今後期待出来るため、日本株の押し目買いを引き続き推奨する。

今週は、日銀政策決定会合や国内経済指標の発表があるものの、日本株への影響は限定的か。寧ろ、31 日の衆議院選挙で自民党が単独過半数を確保出来るかどうかの各種報道が一つのポイントとなろう。また、ハロウィン効果(注:直近 10 年の 11 月日経平均の月間騰落率は 9 勝 1 敗)にも期待したいが、相場の方向性を決める大きな要因は、中国政府の姿勢、すなわち大手不動産会社の債務問題への危機対応、景気刺激策を打ち出すかどうか、企業への締め付け・米国との対立姿勢の緩和がみられるかであろう。そのヒントとしてソフトバンク G の株価推移を注視している。

(増田 克実)

発表日	銘柄	予想営業利益			予想税引利益	
		上期QC	通期QC	通期会社	通期QC	通期会社
10月						
26日	6594 日電産	91,403	192,753	180,000	149,747	140,000
27日	2413 エムスリー	51,600	95,836	-	64,400	-
	4005 住友化	123,740	215,658	180,000	122,642	100,000
	4063 信越化	267,000	519,572	485,000	391,190	363,000
	6501 日立	317,500	762,600	740,000	595,503	550,000
	6702 富士通	89,843	286,684	275,000	211,713	205,000
	6954 ファナック	111,700	215,751	194,400	172,421	156,000
	7735 スクリン	20,764	47,600	44,500	31,208	28,000
	9022 JR東海	-37,750	52,193	106,000	-19,279	15,000
28日	4502 武田	353,251	506,551	488,000	244,261	250,000
	4661 OLC	-20,207	5,708	-	3,882	-
	6301 コマツ	122,000	267,000	225,000	175,069	146,000
	6752 パナソニック	210,269	369,578	330,000	245,925	210,000
	6758 ソニーG	591,617	1,014,679	980,000	751,381	700,000
	6861 キーエンス	187,475	376,978	-	271,629	-
	9020 JR東	-83,250	-79,062	74,000	-95,228	36,000
29日	4062 イビデン	26,401	55,861	45,000	37,211	29,000
	4568 第一三共	74,990	78,677	70,000	59,608	50,000
	6701 NEC	32,307	132,550	120,000	77,537	67,000
	6902 デンソー	178,900	433,228	440,000	334,853	336,000
	6981 村田製	212,516	378,520	365,000	284,744	271,000
	9104 商船三井	21,500	42,075	35,000	422,763	335,000

QUICKより証券ジャパン調査情報部作成。QCはQUICKコンセンサス。単位:百万円

投資のヒント

☆TOPIX500 採用で株価が 13 週・26 週の両移動平均線の上位にある主な取組良好銘柄群

TOPIX は右下がりの 25 日移動平均線（以下 MA）に上値を抑えられる一方、週足の 26 週・13 週の両 MA の上位を維持しており、依然右上がりの中期トレンドが継続している。下表には TOPIX500 採用で、株価が 13 週・26 週の両 MA の上位にあり、東証信用倍率が 1 倍未満の主な銘柄群を掲載した。バリュエーション的に割安、業績見通しを上方修正した銘柄なども散見され、注目したい。（野坂 晃一）

表. TOPIX500採用でテクニカル的に好位置にある主な取組良好銘柄群

コード	銘柄	株価(円)	予想PER (倍)	実績PBR (倍)	配当利回 り(%)	予想経常利 益伸率(%)	信用倍率 (倍)	5日カイ 離率(%)	25日カイ 離率(%)	日足分類	13週カイ 離率(%)	26週カイ 離率(%)	週足分類
8136	サンリオ	2695	103.3	5.33	0.59	-	0.11	1.01	6.14	1	14.89	28.01	1
8439	東京センチュ	6610	13.4	1.28	2.16	28	0.32	2.16	3.4	1	5.69	5.91	1
1878	大東建	13630	14.2	2.8	3.46	7.1	0.33	0.29	2.97	1	5.63	8.66	1
5232	住友大阪	3350	15.5	0.61	3.58	-43.3	0.38	0.29	3.42	1	6.16	6.23	1
6395	タダノ	1246	15	1.01	0.56	-	0.41	1.1	5.38	1	4.97	7.62	1
3141	ウエルシア	4190	32.3	4.52	0.71	3.9	0.49	0.11	2.36	1	4.54	11.98	1
7912	大日印	2851	14.4	0.73	2.24	8.5	0.63	0.85	3.27	1	6.14	12.74	1
5631	日製鋼	3255	21.7	1.68	1.38	49.2	0.81	1.33	8.73	1	13.9	14.95	1
2593	伊藤園	7190	69.9	5.75	0.55	16.3	0.14	-0.05	-2.2	4	0.92	5.91	1
2501	サッポロHD	2511	16.2	1.21	1.67	-	0.29	-1.52	-1.55	4	2.03	6.19	1
4021	日産化	6340	26.4	4.69	1.7	2.3	0.41	-2.28	-3.21	4	1.76	7.42	1
2212	山パソ	1838	38.7	1.2	1.19	17.6	0.51	-1.84	-4.67	4	0.77	6.62	1
8630	SOMPO	4908	13.6	0.8	4.27	-14	0.67	-1.52	-2.02	4	0.38	6.89	1
2201	森永	4010	17.2	1.62	1.99	-12	0.86	-1.32	-2.85	4	0.85	6.6	1
8795	T&D	1519	55.4	0.57	3.68	-67.6	0.92	-0.52	-2.16	4	3.15	4.47	1
9861	吉野家HD	2172	29.8	3.25	0.46	-	0.42	-2.49	-1.58	5	1.55	3.31	1
2433	博報堂DY	1871	26.3	2.06	1.6	0.8	0.46	-1.5	-0.89	5	2.32	3.63	1
2371	カカココム	3695	51.7	16.62	1.08	19	0.47	-2.04	-1.22	5	4.34	9.85	1
4324	電通グループ	4245	10.9	1.42	2.37	-	0.53	-1.37	-0.19	5	2.07	7.18	1
6806	ヒロセ電	18260	25.8	2.05	1.42	20	0.6	-1.71	-1.58	5	0.28	6.64	1
3092	ZOZO	4130	36.8	50.48	1.33	7.7	0.65	-1.07	-0.88	5	0.23	6.61	1
2531	宝HLD	1573	23.2	1.93	1.52	32.2	0.75	-1.68	-0.59	5	5.28	8.2	1
6645	オムロン	10540	44.3	3.35	0.81	2.9	0.77	-2.87	-2.72	5	0.3	10.07	1
1928	積ハウス	2368.5	10.7	1.14	3.71	18	0.9	-1.48	-0.04	5	3.78	4.37	1
9744	メイテック	6490	24.6	4.1	2.97	2.9	0.21	-0.36	1.66	6	0.52	3.31	1
7951	ヤマハ	7110	29.9	2.95	0.92	49.6	0.21	-1.3	0.15	6	5.15	9.82	1
7936	アシックス	2774	203	3.49	0.86	-	0.26	-3.75	4.93	6	7.66	11.12	1
6841	横河電	2196	36.6	1.9	1.54	-26.7	0.28	-0.29	7.95	6	16.17	20.61	1
9602	東宝	5440	36.8	2.52	0.64	65.3	0.3	-0.32	2.96	6	7.82	13.26	1
2801	キッコマン	9140	60.1	5.59	0.49	-0.7	0.31	-2.2	0.28	6	8.39	17.84	1
4665	ダスキン	2683	23.2	0.9	2.16	34.2	0.44	-0.5	0.63	6	1.54	2.9	1
2492	インフォMT	1081	581.1	21.81	0.08	-57.1	0.48	-0.11	3.21	6	7.63	11.25	1
2175	エスエムエス	4300	70.9	14.76	0.22	10.5	0.49	-1.78	3.38	6	9.96	22.43	1
7205	日野自	1123	58.6	1.16	1.24	242.5	0.55	-1.38	4.9	6	11.88	13.81	1
8830	住友不	4118	13	1.27	1.09	5.3	0.59	-0.85	1.66	6	7.72	8.04	1
7733	オリンパス	2471.5	31.4	7.93	0.56	75.8	0.72	-1.79	2.49	6	4.64	7.13	1
9962	ミスミG	4775	41.1	5.65	0.6	66.2	0.79	-1.11	1.72	6	5.81	17.51	1
7832	バンナムHD	8566	36.1	3.65	0.56	-13.3	0.81	-1.47	1.23	6	6.2	8.33	1
4503	アステラス	1951	19.7	2.61	2.56	54.8	0.83	-0.69	2.5	6	4.32	5.36	1
7269	スズキ	5123	16.5	1.44	1.75	-11.4	0.95	-1.61	1.7	6	5.31	8.42	1
9409	テレ朝HD	1813	13.1	0.48	2.2	-11	0.13	1.44	1.96	1	3.88	1.04	2
3291	飯田GHD	2838	9.5	0.93	3.17	4.4	0.1	-0.63	-1.04	4	2.44	1.54	2
2815	アリアケ	7210	28.3	2.32	1.06	10.5	0.3	-0.63	3.26	6	8.34	8.31	2
7211	三菱自	370	36.7	1.08	-	-	0.73	-0.85	16.38	6	21.87	21.71	2

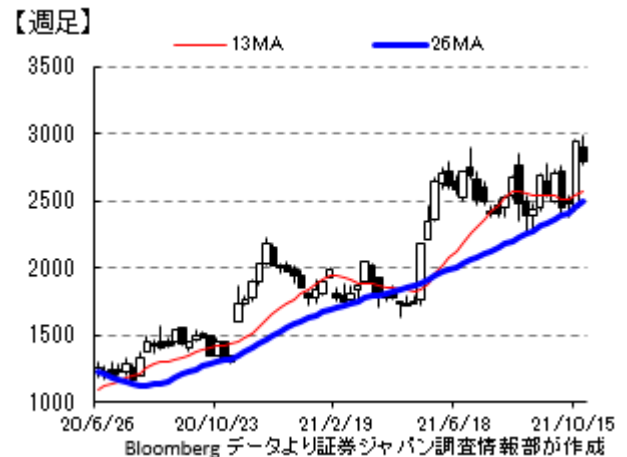
※指標は10/21日時点、QUICKデータより証券ジャパン調査情報部作成

最後に重要な注意事項が記載されておりますので、お読みください

参考銘柄

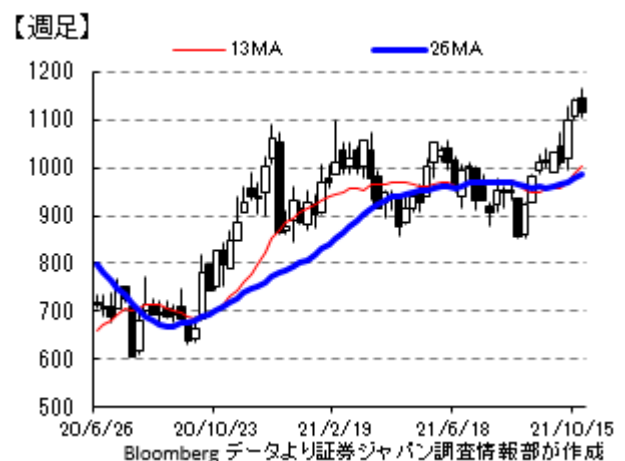
7936 アシックス

21 年 12 月期第 2 四半期（1～6 月）業績は売上高が前年同期比 42.6%増の 2094.7 億円、営業利益は前年同期の 38.7 億円の赤字から 239.9 億円の黒字に転換した。売上高は第 2 四半期累計で 4 年ぶりに 2000 億円を突破、営業利益も 6 年ぶりに 200 億円を大きく上回った。また、すべてのカテゴリーで増収となった。主力のパフォーマンスランニング（P.RUN）はほぼ全地域で増収となり、売上高は前年同期比 50%超の増収で、19 年比でも増収となった。オニツカタイガー（OT）も全地域、全チャネルで増収となり、とくに中華圏では 50%を超える伸びとなった。地域別売り上げでも、米欧中オセアニアが大きく伸長し、日米欧中は大幅増益となった。通期見通しは海外主要地域での売上高が好調に推移したことから、従来計画（レンジ予想）に対して、売上高は上限の 3950 億円（前期比 20.1%増）、営業利益は主要カテゴリーで粗利率の改善が進み、上限から 10 億円増の 145 億円（前期は 39 億円の赤字）に上方修正された。しかし、修正計画でも下期営業利益は 95 億円の営業赤字の見通しとなっており、前期まで営業黒字を計上していることから、更なる増額が見込まれる。加えて、想定為替レートは 1 ドル 105 円、1 ユーロ 125 円で、現状の為替水準を考慮すれば、為替メリットの上乗せも期待される。さらに、第 3 四半期（7～9 月）はオリンピック・パラリンピック効果や巣ごもり需要なども見込まれるため、極めて保守的な計画と言えよう。なお、当期純利益には店舗休止等損失として 52.9 億円の特別損失が計上されている。決算発表は 11 月 5 日予定。



7205 日野自動車

22 年 3 月期第 1 四半期（4～6 月）業績は売上高が 3435.4 億円で、収益認識基準を今期から導入したため、前期比較はできないが、旧基準では前年同期比 36.9%増の 4111 億円となった。営業利益は前年同期の 161.0 億円の赤字から 161.7 億円の黒字に転換し、19 年度 1Q の 136 億円も上回った。国内の販売台数は大中トラックやバスが台数を減らしたが、小型トラックの需要回復で微増となった。海外は米国が工場停止の影響を受け大幅に減少したものの、インドネシアは前年同期比 178.4%増となったほか、タイは市場回復により同 46.7%増で 19 年度水準まで戻った。また、トヨタ向け車両やユニット売上は前年同期比で大幅増加となり、19 年度水準まで回復した。会社側は通期計画を売上高 1 兆 3300 億円、営業利益 470 億円で据え置いているが、第 1 四半期営業利益の通期計画に対する進捗率は 34.4%と高いうえ、足元では円安も進行（想定為替レートは 1 ドル 105 円）していることから、上振れの可能性がある。また、来春には EV のコミュニティバス、夏には物流向け EV 小型トラックを発売する予定だ。決算発表は 10 月 28 日予定。



（大谷 正之）

3994 マネーフォワード

2021 年 11 月期第 3 四半期の業績は、通期業績予想の達成に向けて順調に推移。主要 KPI は、課金顧客数は法人で前四半期比 6.0% 増の 83,431、個人事業主で前四半期比 3.9% 増の 91,359、ARPA は法人で前四半期比 0.4% 増の 80,954 円、個人事業主で前四半期比 1.5% 減の 11,651 円、課金顧客数ベースの解約率は 1.5% となった。中堅企業の獲得が好調に推移しており、ARR ベースでは法人向けに占める中堅企業の比率が約 25% にまで上昇した一方で、コロナ禍で「STREAMED」の利用が低調となったことから、法人向け ARPA の伸びが低位に留まった。同社では

2021 年 8 月に実施した公募増資により約 315 億円の資金調達を実施しているほか、投資方針として「中長期的なキャッシュフローの現在価値最大化」を重視していく方針を示していることから、来期以降はセールス&マーケティングを中心に先行投資を強化していくことが想定される。ただ、同社のビジネスモデルはサブスクリプション型のビジネスモデルとなっていることから、先行投資を行い顧客獲得の強化に注力していくことが、同社の中長期的な企業価値向上に寄与していくものと思われる。

<https://finance.logmi.jp/376565>

【週足】



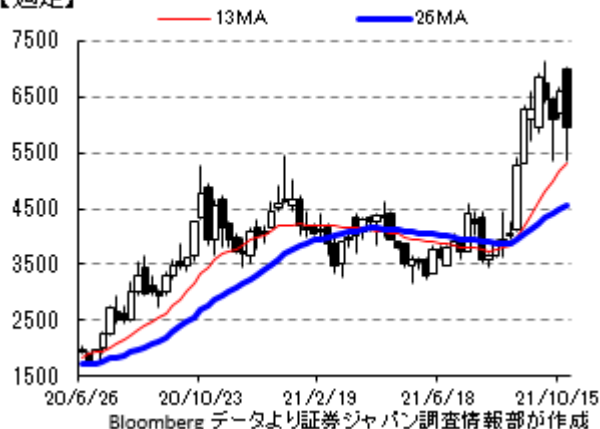
4490 ビザスク

2022 年 2 月期通期業績予想の修正を発表。上期の好調な業績を受けてビザスク単体の業績は、取扱高が前期比 54.0% 増の 39 億円（従来予想比 5.4% 増）、営業収益が前期比 49.6% 増の 24 億円（従来予想比 10.0% 増）、（M&A 費用等計上前）営業利益が前期比 92.3% 増の 4 億円（従来予想比 73.9% 増）に上方修正された。一方で、コールマン社の第 4 四半期分の業績貢献や M&A 関連費用約 8 億円の計上により、2022 年 2 月期通期の連結業績予想は、取扱高が 53.8 億円、営業収益が 34 億円、のれん償却前営業利益が 2.5 億円の赤字を見込んでいる。同社の

事業規模と比較するとコールマン社の M&A 案件は巨額で、利益面ではのれん償却負担が重荷となるが、コールマン社の買収により、ビザスクの取扱高は約 100 億円、登録アドバイザー数はグローバルで約 40 万人、国内外の拠点数が 7 拠点にまで拡大することから、海外案件の拡大や登録アドバイザー数の増加によるマッチングの効率化などで、早期のシナジー効果の創出が期待されるものと思われる。

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4490/tdnet/2032722/00.pdf>

【週足】



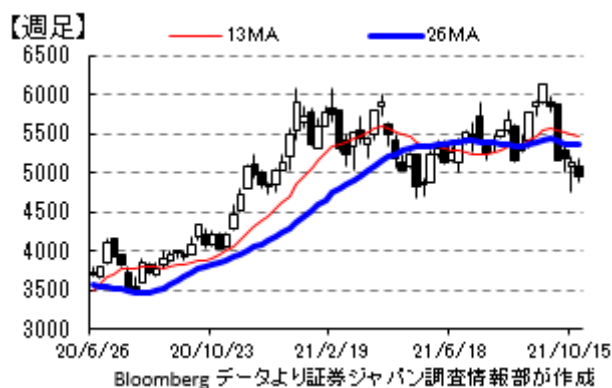
（下田 広輝）

6506 安川電機

第2四半期決算発表で22年2月期の営業利益計画について上方修正を行い580億円とした。前期決算発表時に、新型コロナ感染拡大の影響が不透明として中計で目標としていた700億円を見直して420億円に下方修正していたが、今第1四半期ではモーションコントロール、ロボットが堅調で540億円に上方修正、今回も全地域・主要セグメント全体に堅調で再度の修正となった。今後の受注については、足元9月、10月も好調であるが、日本や中国の先行受注が先んじた可能性もあり、先納期の受注は徐々に平準化されるという慎重な見方を示した。また、材料・物流費の上昇の影響については、下期は価格転嫁によりある程度相殺するとしている。

主力のモーションコントロールは第1四半期から大きく伸びており、その背景には、3月にACサーボドライブの新製品「Σ-X（シグマ・テン）」シリーズの販売を開始したことが大きい。13年に発売した「Σ-7」シリーズの後継機種であり、最高回転速度を高め、エンコーダ分解能力を360度の1/6700万の高精度化（26ビット）を実現、さらには調整の負担を減らす機能や、異常を検知する機能などを備えている。1kWの製品から販売し、22年3月までに15kWまでの全製品を切り替える予定。高速・高精度化、新たな機能の追加などに加え、従来製品との互換機能も備えており、置換えも容易なことから需要は高く、本格的な市場投入は今年度後半の計画であったが、Σ-Xの生産には半導体の供給懸念が少ないことから前倒して量産化するよう準備を整え、半導体の供給とのバランスを見ながら新旧製品の切り替えを進め、需要増へ対応できたことが功を奏した。

6月に新製品として投入された、装置や産業用ロボットなどで構成された“セル”の様々なデータを高速かつリアルタイム、そして時系列に同期して統合的に制御する「YRM-X（テン）コントローラ」や、ラインアップが拡充するΣ-Xシリーズと併せて、来期以降はより本格的な寄与が期待できよう。



YRM-X コントローラ Σ-X シリーズ



スマート工場化に向けたソリューション <https://www.yaskawa.co.jp/product/i3-mechatronics>

セグメント別 通期営業利益計画

	(億円)	利益率
モーションコントロール	422	18.2%
ロボット	180	10.0%
システムエンジニアリング	27	5.1%
その他	5	2.5%
消去または全社	▲54	-
計	580	-

想定為替レートと1%変動による影響額

	下期想定	通期営業利益の影響額
米ドル	109円	約2.6億円
ユーロ	129円	約2.2億円
元	16.8円	約4.3億円
ウォン	0.093円	約1.7億円

決算補足説明資料より

(東 瑞輝)

<国内スケジュール>

10月25日(月)

準天頂衛星システム「みちびき」初号機後継機打上げ

10月26日(火)

9月企業向けサービス価格指数(8:50、日銀)

基調的なインフレ率を捕捉するための指標(14:00、日銀)

9月半導体製造装置販売高(SEAJ)

上場 CINC<4378>東M

10月27日(水)

日銀金融政策決定会合(28日まで)

10月28日(木)

日銀金融政策決定会合最終日、黒田総裁会見

日銀展望レポート

9月商業動態統計(8:50、経産省)

10月29日(金)

10月東京都都区消費者物価(8:30、総務省)

9月有効求人倍率・労働力調査(8:30、厚労省)

9月鉱工業生産、出荷、在庫(8:50、経産省)

9月住宅着工、建設受注(14:00、国交省)

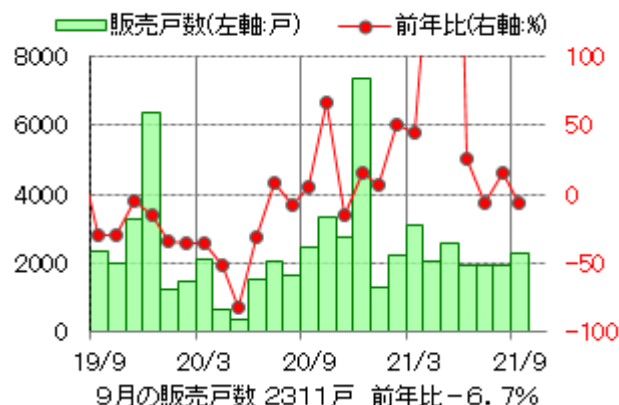
10月消費動向調査(14:00、内閣府)

10月31日(日)

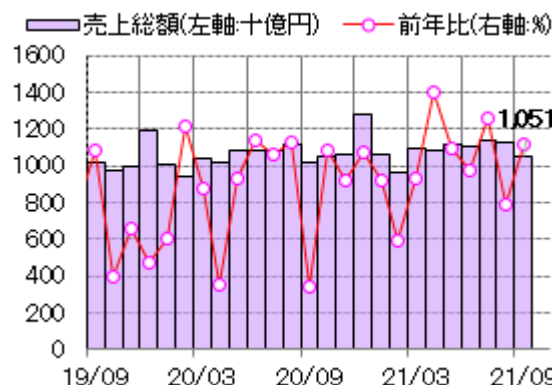
衆議院議員総選挙投票日

【参考】直近で発表された主な国内経済指標

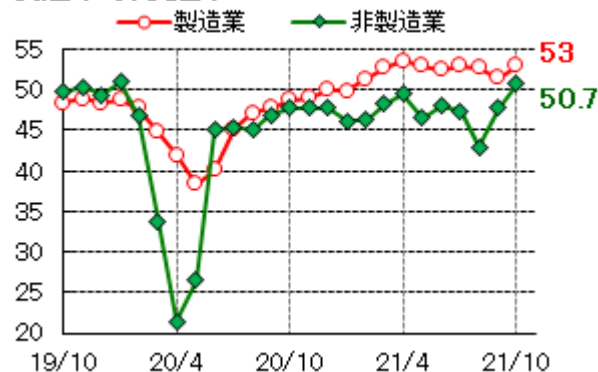
首都圏マンション販売



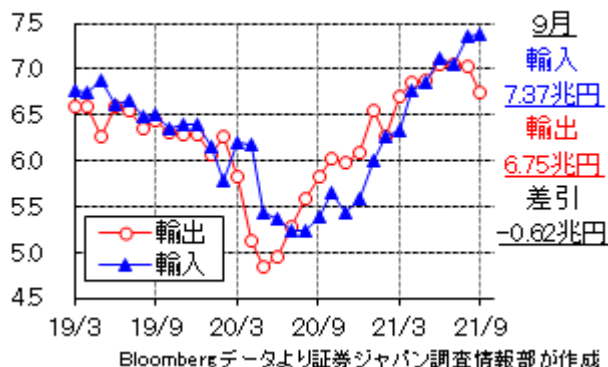
スーパー売上高



製造業・非製造業 PMI



貿易収支(季調済:兆円)



		前回より
9月 首都圏マンション販売 前年比	-6.7%	↓
9月 貿易収支 現数値	-6228億円	↑
9月 貿易収支 季調済	-6248億円	↑
9月 輸出 前年比	+13.0%	↓
9月 輸入 前年比	+38.6%	↑
8月 スーパー売上高 前年比	+3.2%	↑
9月 CPI 前年比	+0.2%	↑
9月 CPIコア 前年比	+0.1%	↑
10月 製造業PMI 速報	53.0	↑
10月 非製造業PMI 速報	50.7	↑

※ご注意「前回より」は前の四半期・月との比較ですが、改定・確報とある場合は直近の速報値との比較です。発表、報道等より証券ジャパン調査情報部が作成

タイムテーブルと決算予定（予定は変更になる場合がありますので、ご注意ください）

<国内決算>

10月25日(月)

16:00～ 【2Q】コーエーテクモ<3635>

10月26日(火)

15:00～ マクアケ<4479>

【2Q】オービック<4684>、日立金<5486>、弁護コム<6027>、日立建機<6305>、日本電産<6594>、スタンレー<6923>、新光電工<6967>

【3Q】シマノ<7309>、キヤノン<7751>

16:00～ 【2Q】富士通<6755>、日東電工<6988>

10月27日(水)

11:00～ 【3Q】ヒューリック<3003>

12:00～ 【2Q】JPX<8697>

15:00～ サイバエジェ<4751>

【2Q】エムスリー<2413>、住友化<4005>、信越化<4063>、NRI<4307>、大日住薬<4506>、特殊陶<5334>、アサヒHD<5857>、日立<6501>、富士通<6702>、ファナック<6954>、スクリン<7735>、大和証G<8601>

16:00～ 【2Q】JR東海<9022>、東電力HD<9501>、大阪ガス<9532>

17:00～ 【3Q】Vコマース<2491>

10月28日(木)

9:00～ 【2Q】トクヤマ<4043>

11:00～ 【2Q】大東建託<1878>、大同特鋼<5471>、岡三<8609>

13:00～ 【2Q】積水化<4204>、三菱電<6503>、HOYA<7741>

14:00～ 【2Q】東京ガス<9531>

15:00～ セプテーニHD<4293>

【2Q】日清粉G<2002>、野村不HD<3231>、Jストリーム<4308>、武田<4502>、ファンケル<4921>、コマツ<6301>、富士電機<6504>、明電舎<6508>、マキタ<6586>、オムロン<6645>、パナソニック<6752>、アンリツ<6754>、ソニーG<6758>、アルプスアル<6770>、アドバンテス<6857>、ローム<6963>、日野自<7205>、JR東日本<9020>、北陸電<9505>、東北電<9506>、北海電<9509>、カプコン<9697>、【3Q】山パ<2212>、ISID<4812>、小林製薬<4967>、ルネサス<6723>、東競馬<9672>

16:00～ 【2Q】JCRファーマ<4552>、OLC<4661>、キーエンス<6861>、小糸製<7276>、中部電<9502>、関西電<9503>、ミスミG<9962>

時間未定【2Q】ZOZO<3092>、SBI<8473>

10月29日(金)

11:00～ 【2Q】NESIC<1973>、ALSOK<2331>、豊田織<6201>、デンソー<6902>、東邦ガス<9533>

12:00～ 【2Q】カルビー<2229>、東洋水産<2875>、ゼオン<4205>、アステラス薬<4503>、商船三井<9104>

13:00～ 【2Q】第一三共<4568>、LIXIL<5938>、ジェイテクト<6473>、三菱重<7011>、アイシン<7259>、小田急<9007>

14:00～ 【2Q】トヨタ紡織<3116>、豊田合<7282>、阪急阪神<9042>

15:00～ 【1Q】メルカリ<4385>、テクノプロHD<6028>

【2Q】日本M&A<2127>、SMS<2175>、セリア<2782>、イビデン<4062>、コーセー<4922>、TOTO<5332>、ガイシ<5333>、住友重<6302>、栗田工<6370>、NEC<6701>、エプソン<6724>、ワコム<6727>、村田製<6981>、アトム<7412>、メディパル<7459>、野村<8604>、東武<9001>、京成<9009>、SGHD<9143>、ANA<9202>、KDDI<9433>、中国電<9504>、四国電<9507>、九州電<9508>、SCSK<9719>

【3Q】住友林<1911>、インフォマート<2492>、カゴメ<2811>、JT<2914>、MonotaRO<3064>、日電硝<5214>

16:00～ 【1Q】レーザーテック<6920>

【2Q】デジアーツ<2326>、IRJ HD<6035>、豊田通商<8015>、KADOKAWA<9468>、Jパワー<9513>

【3Q】ナブテスコ<6268>

時間未定【2Q】NTN<6472>

<海外スケジュール・現地時間>

10月25日(月)

独 10月IFO景況感指数
休場 NZ(レーバーデー)

10月26日(火)

米 8月S&Pケース・シラー住宅価格
米 9月新築住宅販売
米 10月消費者景気信頼感
AIIB年次総会(28日まで、UAE主催)

10月27日(水)

欧 9月ユーロ圏M3
米 9月耐久財受注

10月28日(木)

ECB定例理事会、ラガルドECB総裁会見
独 10月消費者物価
米 7~9月期GDP
休場 ギリシャ(オヒ・デー)

10月29日(金)

欧 7~9月期ユーロ圏GDP
欧 10月ユーロ圏消費者物価
独 7~9月期GDP
米 9月個人消費支出(PCE)・物価
米 7~9月期雇用コスト指数
米 10月シカゴ景況指数
休場 トルコ(共和制宣言記念日)

10月30日(土)

G20首脳会議(31日まで、ローマ)

10月31日(日)

中 10月製造業PMI
COP26(11月12日まで、グラスゴー)
欧州冬時間入り(英-9時間、仏独伊-8時間)

<海外決算>

10月25日(月)

フェイスブック

10月26日(火)

ウェスト・マネジメント、コーニング、スリーエム、
レイセオン、AMD、アルファベット、テキサス、ビザ、
マイクロソフト、ツイッター、GE

10月27日(水)

サーモ・フィッシャー、ボーイング、コカ・コーラ、アライン、
スポティファイ、マクドナルド、アイロボット、コグニザント、
サービスナウ、テラドック、ザイリンクス、イーベイ、GM

10月28日(木)

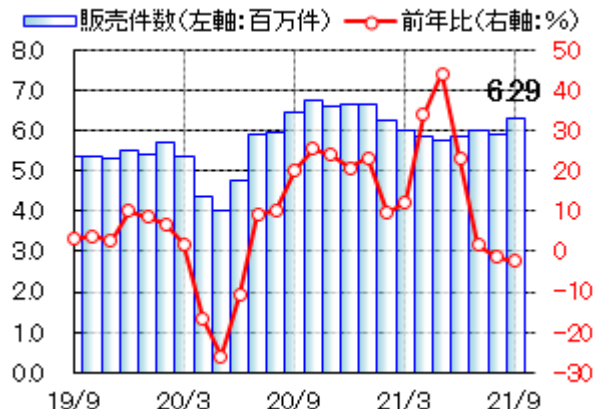
キャタピラー、ショッピファイ、ニューモント、アップル、
チェック・ポイント、メルク、アマゾン、スターバックス、
レスメド、ギリアド

10月29日(金)

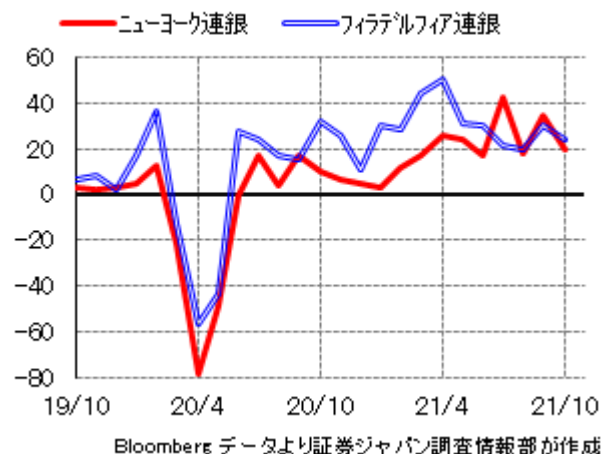
エクソン、シェブロン

【参考】直近で発表された主な海外経済指標

米中古住宅販売



米国各連銀製造業景況感

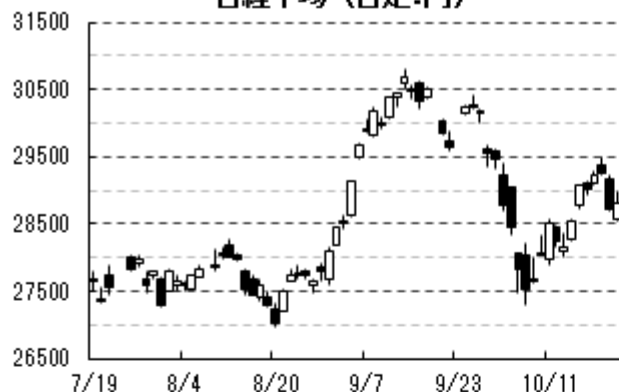


		前回より
米	9月 小売売上高 前月比	+0.7% ↓
米	10月 NY連銀製造業景況感	19.8 ↓
米	9月 輸入物価指数 前月比	+0.4% ↑
米	10月 ミシガン消費者信頼感指数	71.4 ↓
米	9月 鉱工業生産 前月比	-1.3% ↓
米	9月 設備稼働率	75.2% ↓
米	9月 住宅着工件数 前月比	-1.6% ↓
米	9月 中古住宅販売 前月比	+7.0% ↑
米	9月 景気先行指数	+0.2% ↓
米	10月 フィラデルフィア連銀景況感	23.8 ↓
独	9月 PPI 前月比	+2.3% ↑
独	9月 PPI 前年比	+14.2% ↓
中	3Q GDP 前期比	+0.2% ↓
中	3Q GDP 前年比	+4.9% ↓
中	9月 小売売上高 前年比	+4.4% ↑
中	9月 鉱工業生産 前年比	+3.1% ↓

※ご注意「前回より」は前の四半期・月との比較ですが、
改定・確報とある場合は直近の速報値との比較です。
発表、報道等より証券ジャパン調査情報部が作成

(東 瑞輝)

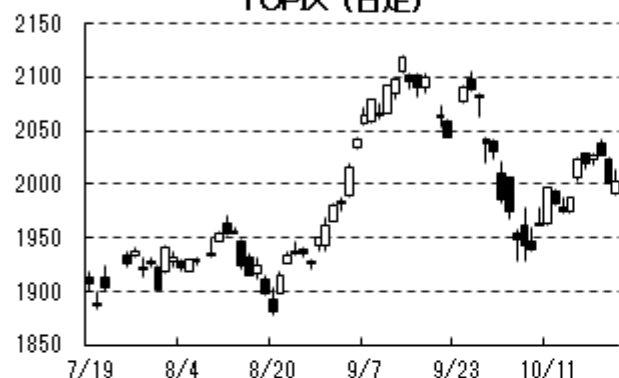
10/22 15:52 現在 日経平均 (日足:円)



NYダウ (日足:ドル)



TOPIX (日足)



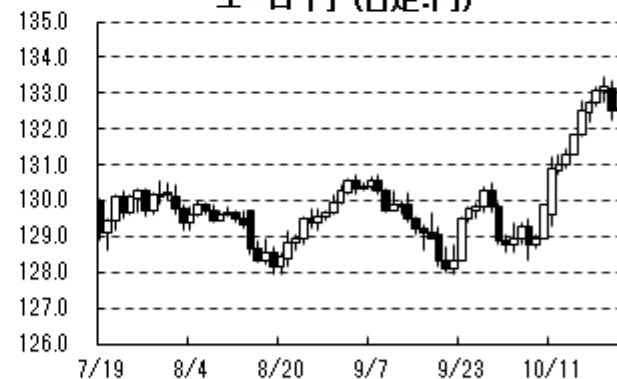
NASDAQ (日足)



ドル・円 (日足:円)



ユーロ・円 (日足:円)



米10年国債利回り (日足:%)



WTI (日足:ドル)



投資にあたっての注意事項

【重要開示事項】

- 本資料は、株式会社証券ジャパン（以下「証券ジャパン」といいます。）調査情報部が、投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません。
- 執筆アナリストは、本資料におけるレポート対象企業の有価証券を保有しておらず、重大な利益相反関係にありません。
- 本資料は証券ジャパンが信頼できると考える情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性および完全性について証券ジャパンが保証するものではありません。
- 本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、証券ジャパンは、理由の如何を問わず責任を負いません。
- 本資料に記載された証券ジャパンの意見ならびに予測は、資料作成時点での証券ジャパンの見通しであり今後予告なしに証券ジャパンの判断で随時変更することがあります。また、本資料のコンテンツおよび体裁等も証券ジャパンの判断で随時変更することがあります。2021年10月22日現在、金融商品取引所の信用取引の禁止措置等の規制銘柄は当レポートより除外しております。今後、金融商品取引所等により新たな規制が行われる可能性があります。
- 掲載した企業について株価の下落や発行者の信用状況の悪化等により、投資元本を割り込むおそれがあります。銘柄の選択、投資に関する最終決定はお客様自身の判断でなされるようお願いいたします。
- 本資料は証券ジャパンの著作物であり、著作権法によって保護されております。証券ジャパンの事前の承認なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行所住所等 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 1-2-18
編集発行責任者 増田 克実
商号等 株式会社証券ジャパン
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第170号
加入協会 日本証券業協会

コンプライアンス推進部審査済 2021年10月22日

『金融商品取引法』に係る重要事項について

■ 国内上場投資信託（ETF）のリスク

- リスク要因として「株価変動リスク」・「為替変動リスク」・「カントリーリスク」・「信用リスク」及び「有価証券の貸付等におけるリスク」があります。基準価額の下落や発行者の信用状況の悪化などにより、投資元本を割り込むことがあり、損失を被ることがありますので『契約締結前交付書面（上場有価証券等書面）』をよくお読みください。

■ 国内上場投資信託（ETF）の手数料など諸経費について

- 国内上場投資信託（ETF）の売買取引には、約定代金に対して最大 1.265%（税込み）（217,392 円以下の場合は、2,750 円（税込み））の委託手数料が必要となります。
- 国内上場投資信託（ETF）を募集等により購入する場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 保護預かり口座管理料は無料です。

■ 国内株式のリスク

- リスク要因として「株価変動リスク」と「発行者の信用リスク」があります。株価の下落や発行者の信用状況の悪化などにより、投資元本を割り込むことがあり、損失を被ることがありますので『契約締結前交付書面（上場有価証券等書面）』をよくお読みください。

■ 国内株式の手数料など諸経費について

- 株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.265%（税込み）（217,392 円以下の場合は、2,750 円（税込み））の委託手数料が必要となります。
- 株式を募集等により購入する場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 保護預かり口座管理料は無料です。

商 号 等
加 入 協 会
当 社 が 契 約 す る 特
定 第 一 種 金 融 商 品
取 引 業 務 に 係 る 指
定 紛 争 解 決 機 関

三井証券株式会社 金融商品取引業者
北陸財務局長（金商）第 14 号
日本証券業協会
特定非営利活動法人
証券金融商品あっせん相談センター

留意事項

この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり、今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。